

四万十川洪水防災シンポジウム 開催報告

講演報告:

2007年3月4日(日),四万十市田出の川の「かわらっこ」にて,四万十川洪水防災シンポジウム~2005年台風14号による四万十川洪水被害を教訓として~が土木学会四国支部主催,国土交通省中村河川国道事務所,高知県,四万十市,大川筋地区区長会,大川筋防災連絡会,NPO四万十川天然博物館からの後援を受け,開催されました.参加者は,近隣地区の住民をはじめ,自治体関係者等約40名が参加しました.

四万十川では,2005年9月台風14号による降雨により,約40年ぶりの大出水となり,家屋の床下・床上浸水被害は,四万十川沿いを中心に上流の西土佐地区から下流にかけて数百箇所にも及びました.本シンポジウムでは,この洪水被害からの教訓として,直後から災害調査,データ分析を行ってこられた松田誠祐高知大学名誉教授,大年邦雄高知大学教授,岡田将治高知高専助教授による「防災における地域の役割」,「四万十川洪水水位の予測」,「災害時の情報伝達に関する取り組み」についての講演・事例報告が行われました.

また,シンポジウムの最後に設けた全体討論会では,被害当日に消防団として活動された方から災害時の情報の重要性についての意見,日頃からの準備の必要性等,約30分間にわたり活発に議論が行われました.

講演風景:

